

極め続けるプロフェッショナルシリーズ

…極めつづけるこだわりの銘品・人物をご紹介します

木・菌・土を循環させるダイシン 持続可能なアップサイクルの取組

「困りもの」をきのこの栽培地として活用

40年ほど前、木材を加工する際に出る「大鋸屑(おがくず)」は、「やっかいな困りもの」でした。それを、きのこの栽培地として利用できるよう「おが粉」の製造を手掛けたのが事業の始まり。

現在は森林整備の際に出る間伐材も活用し、全国各地のさまざまな木材由来の「おが粉」を製造しています。

きのこ生産者の要望に応じ、木質と粒度や配分を変えてオリジナルブレンドの「おが粉」を提供するのも、ダイシンならではの。



廃培地を「酵素堆肥」として活用

きのこ栽培を終えた「培地」は産業廃棄物になる「やっかいな困りもの」でしたが、今度はこの廃培地を再利用。酵素を加えて発酵と分解を促し、完熟の「酵素堆肥」に仕上げました。



健全な土壌が育てる丈夫な作物

100%植物性の「酵素堆肥」は土壌の微生物とも相性が良いようで、利用者からは「作物の育ちが良くなりすぎて、規格外になってしまった」という報告も。「丈夫に育つので農薬も化学肥料もいらなくなった」「甘味が増した」「日持ちがよくなった」など、口コミで評判が広がっているそうです。

持続可能な循環の仕組み

本来は捨てられるはずの素材に新たな価値を与えて再生することを「アップサイクル」と言い、「創造的再利用」とも呼ばれます。

ダイシンは、産業廃棄物になる「大鋸屑」を「おが粉」に変え、再び廃棄物になる「廃培地」を「酵素堆肥」に変える二重のアップサイクル。木の恵みで菌(きのこ)を育て、そして土へ還す持続可能な循環の仕組みです。

2024年6月30日まで、創業40周年記念大感謝祭・大特価キャンペーンを開催中です。WEBサイトをご覧ください。

おが粉と酵素堆肥の製造販売

株式会社ダイシン

営業は平日と土曜日の午前8時から午後5時まで
日曜日・祭日は休業(お盆、年末年始も休みあり)

〒389-1101 長野県長野市豊野町川谷 931-1
電話 026-257-4790 FAX026-257-5067
E-mail daisin@muse.ocn.ne.jp
Web サイト <https://daisin-nagano.jp/>



(株)ウエルネスライフ研究所

〒381-0037 長野県長野市西和田 1-4-14
☎0120-113944 ✉ace@113944.jp
イネサンキューゾン

113944.jp 検索

みんなの笑顔と元気で地域社会に貢献する

MOTTAINAI倶楽部®

あなたのまわりの MOTTAINAI 大募集!!

